

# 西多摩医師会報

1986年10月1日

166号

発行所・社団法人 西多摩医師会 東京都青梅市西分3-103  
編集委員・石井 好明 井村 進一 TEL.(0428)23-2171(代)  
栗原 琢磨 小林 杏一  
道又 正達 村山 正昭 渡辺 良友

## 公立三病院正副院長との懇談会 病診連携について

生涯教育準備委員会 大塚 渉

『医師は、知的専門職であり、その重く厳しい社会的使命の為、生涯に亘り、学習に励む義務がある。しかも、この学習は、医師自ら自己の命ずる所により、主体性をもって行うべきである。しかし、現実には、個人としての努力にも限界があり、環境作りや、制度化によって、医師の学習を支援する必要がある』

これは、日医の羽田会長からの要請に於いて、生涯教育制度化検討委員会が熱心な討議を経て60年12月18日提出した生涯教育制度化のガイドラインのはじめの言葉であります。

その方法と形式については、すでに御承知の通り、自宅中心形式、小グループ学習形式、大・小講習会形式等、年間50時間の学習を自己申告する事になっております。

この事については、61年4月より試行されており、私共西多摩医師会に於ても、塩澤学術部長のご尽力により、着々と実施されております。

もう一つの大事な項目に体験学習、病診連携形式というものがございます。

さて、都医師会雑誌368号にこの制度化に対する大森医師会のアンケート調査が報告されております。これによりますと、全回収率(A・B会員共)は、48.8%で、A会員の中では、診療所が、86.5%、病院は8.6%であったと云う事です。こ

こに示された回収率は、当然の事ながらこの制度に対する関心度を示すものであると思われま。この病診連携問題については、西多摩医師会に於ても61年9月11日生涯教育準備委員会が開かれ、熱心な討論がなされました。その模様については、すでに村山編集委員長が、本会報165号に述べられており、重複をさけたいと思います。このような事柄をふまえて、関心の比較的薄いと思われま。公立病院の先生方と、まづお知り合いになる事。より良い人間関係を作る事が、この病診連携問題に対するご理解を得る為に大切な事であるという結論に達しました。

石井理事、塩澤理事のお骨折りにより、61年10月1日、ご多忙な三公立病院の幹部の先生方と、懇談する機会を得ました。ご高名は、かねがねお聞きしておりますが、意外と面識がなく、まづ自己紹介から始まりました。最初に、大変失礼と存じましたが、前述の生涯教育制度化の経緯を述べさせていただき、討論に入りました。

まづ、体験学習である「ベッドサイドティーチング」については、三病院とも色々の事情から、現段階では、先ず無理だろうと云う結論でした。日医も、この事については大変な力の入れようですが、私共としては、西多摩医師会独自の身近かで、実現可能な事から始めて行こうという考えが

(2)

あります。今迄も、三病院には、「C. P. C.」等何かと御面倒を見ていただきましたが、今後は、私共会員の紹介した患者をテーマにした「C. C.」をお願いする事に致しました所、三病院とも、心よく引受けていただいた次第です。その「C. C.」の会場ですが、各病院の職員の問題もあり、各病院の講堂で行う場合もありますが、西多摩医師会の講堂に向いていただく場合もあります。そして当然の事ながら、この問題に関する予算措置も講じなければなりません。

さて、「ベッドサイドティーチング」の際、問題となる登録医の事です。全国区にすべきか、地方区にすべきか議論になりました。つまり、全国区とは、東部、西部、南部の全会員が三公立病院すべてに登録する事。

地方区とは、東部は福生病院、西部は青梅市立病院、南部は阿伎留病院と云うように、各ブロックに分割して登録する事です。いずれに致しましても「ベッドサイドティーチング」が不可能と云う事ですので問題は紹介患者と「C. C.」とに絞られると思います。そう致しますと、全国区でもよろしいのではないかと云う意見もございました。

さて、私共がお願いしたクランケをお見舞に行きましても病院の先生方、職員にも面識が薄く、冷たくあしらわれる事もございます。そのような事のないよう、西多摩医師会員の証しとしての「通行手形」とでも云う「バッヂ」でも作れば、ス

ムスに行くのではないかと云うご意見もありました。

いずれに致しましても、病診連携は、幹部の先生だけでなく、現場を預る先生方にも、是非ご理解を得なくてはなりません。近々各病院、各科の部長先生方と、このような会を持ちたいと考えております。出来るだけ多くの会員のご出席をお願いします。私共としては、生涯教育制度をテコにして、単に会員個人の勉強にとどまらず、医師会への関心と結束を計りたいと願っております。又生涯教育制度の中での病診連携が成功すれば、当然の事ながら、地域医療としての、それもうまく行く筈です。本来質の違う外来患者を公的病院と、私的診療所が競合すると云う奇妙な現象を無くす妙案が出て来る事を切望するものです。

以上

出席者

病院側

福生病院 青梅市立病院 阿伎留病院  
大久保寛二院長 星和夫院長 菅井義久院長  
小林尚副院長 石井好明副院長 平沼俊副院長  
宇賀基副院長 内田智副院長

医師会側

西村、大塚、松原、足立、塩澤、林  
司会 大塚

## 理事会報告

### 9月定例理事会

昭和61年9月24日(水) P.M. 7:30～

西多摩医師会館

議事録署名人 { 井村理事  
大塚理事

### I 報告事項

#### 1) 都医地区医師会長協議会

- 三多摩ブロック地区医師会長協議会報告

(西村会長)

紙面報告がなされたが特に以下の点が強調された。都医では東京都と協力して組織的な防災訓練を計画しているので地区医師会でも協力を願いたい。

一人医療法人のための相談窓口を都医に開

設したので活用してもらいたい。

生涯教育に関して今だ委員会も作られていない地区もあるが、必ず設け、速やかに活動してもらいたい。

柔道整復師の医療行為は適切に行われるべき旨を都医として柔整会に要請した。

#### 2) 生涯教育準備委員会報告 (大塚副会長)

紙面報告であったが特に病診連携に関しては三公立病院側の現場の医師のこれに対する認識が充分とは言えないため、まず委員会と公立病院正副院長との間で懇談会を開いて理解協力を求めることから始めたい旨、報告があった。

#### 3) 地区医師会社保担当理事、国保指導整備委員連絡会報告 (唐橋理事)

61年9月請求分につき、国保は100%、社保(老人)50%の医療費通知が行われると報告された。また請求点数の高額別にランク付けがされて重点的審査が行なわれていること、各科別の研修会が行なわれているが生涯教育も兼ね参加を要請された旨、報告があった。

#### 4) 各部報告

- 学術部：講演会は出席者が常時40名以上あり目標を達している。講演要旨を講師に依頼し、会報に掲載する形をとりたい。
- 産業医部：企業一般従業員対象の講演会を2回開催した。
- 学校医部：第2回西多摩学校保健連絡協議会を東部ブロック主催で10月中に開催する。
- 総務部：青梅税務署職員交代につき正副会長、総務、福祉部長及び青申会支部長と懇談会に出席。

## II 協議事項

- 1) 「医療懇」の話題について(大塚副会長)  
今回は特にテーマの提供はせず医師会長、青梅市長がそれぞれの立場で所感を述べることで承認された。
- 2) 自治体より支給される諸手当について  
(足立理事)

62年度の諸手当の要求額については概ね公務員ベース並の額で一致したが、学校医手当、予防注射手当についてはそれぞれ学校医部、公衆衛生部において検討することで承認された。

#### 3) 忘年会、新年会について (足立理事)

新年会は賀詞交歓会の形式であり、会員間の親睦が必ずしも得られていないので全会員のための忘年会あるいは9、10月頃に親睦会を設ける案が総務部より提出された。担当福祉部より部会で検討することで承認された。

#### 4) その他

- 内田禹次先生の厚生大臣表彰に関して西村会長が個人として祝賀会発起人となることで承認。
- 都医誌新年号投稿依頼は広報部一任で承認。
- 61年度医療経済動態調査モニター委嘱は秋留台病院で承認。
- 学術講演会の電話連絡網による通知は3ヶ月の試行期間が過ぎたので中止することで承認。
- 河野公信会員に関する件は羽村町医師会で検討することで承認。

## 10月理事会

昭和61年10月8日(水) P.M. 7:30～  
西多摩医師会館

議事録署名人 { 湯川理事  
大嶽理事

冒頭、西村会長より毎月始めの理事会は報告事項は少くして出来るだけフリートーキングに多くの時間を当てたい旨の発言があった。

## I 報告事項

- 1) 三公立病院正副院長との懇談会について  
(大塚副会長)

生涯教育のメインテーマの一つである病診連携について地元公立三病院の正副院長と本会正副会長、地域医療、学術、公衆衛生各担当部長との間で10月1日懇談会がもたれた。本会より病院医師側に生涯教育に対して強い関心と認識を持って、此れの実践に協力を依

頼したものである。この結果、次回は各科部長、医長との間で更に具体的な事柄について話し合いが行われる予定であると報告があった。

## II 協議事項

- 1) 広報部より会報に「病院だより」と言った欄を設け特に三公立病院からのニュース、情報提供の場としたい旨発言があり承認された。
- 2) 総務部の事業遂行が円滑に行われるよう経理部長の総務部加入が提案され承認された。
- 3) 入退会者全員承認。

## III フリートーキング

- 1) ヘルス事業のあり方 (林理事提言)  
老健法に基くヘルス事業が発足して5年が経過したが、この間に実施主体である各市町村間において集団、個別方式と言った健診形

態の違い、また健診内容の違いなど、西多摩地域においてはかなりのバラツキが認められる。このことは各自治体及び各地区医師会の独自の事情があつてのことであり本医師会として統一した方式を押し進めることは現在出来ないが、同一医師会内においては将来に向け本事業に対する共通のコンセンサスを得る必要があると考える。今回は特に集団か個別かの健診形態を中心に検討され、林理事より別表の比較表が提出された。集団方法は行政側、医師側主義の形態であるため多く住民の受診が望めない点、検査データの判定及びその後の指導等にも混乱がみられる点などから現状では個別健診のメリットの方がより多

別表

	集 団 診 査		個 別 診 査	
	メ リ ッ ト	デメリット	メ リ ッ ト	デメリット
受診者	1. 公的健診体制が明確化され、安心して健診を受けれる。 2. 一般の診察と区別されていて、感染の危険が少ない	1. 日時が限定される為、受診率が著しく低下する 2. 専門外医師に当たった場合、診査内容に不満が出る 3. 希望する医師に健診を受けられない 4. 会場が遠方になることが多く、交通の問題がある	1. 希望する日時に受診出来る 2. 希望する医師に診査を受けられる 3. 近い所で受けれるので交通の問題は少ない	1. 一般診察と一諸になり、待つ時間が長くなることがある 2. 風邪、その他感染の問題がある
医 師	1. 特定の時間だけ健診にあたればよい 2. 多くの医師が参加し易い	1. 医師会活動の一部ということで、自分の意志に反し、半強制的に参加させられる。(特に専門外の場合) 2. 自治体に依頼されてやる為、保健活動に消極的になり易い 3. 健診から治療、指導が一貫しにくい 4. 会場まで出向かなければならない 5. 税金その他、収入は少くなる	1. 主治医作りに大変良い 2. 問診から検査に至るまで、自分で行う為、健診活動に積極的になる。又地域保健活動に貢献していることを肌で感じ取れる 3. 収入の面で、集団より良い	1. 一般患者と一諸になり外来が混雑し易い 2. 健診結果の判定に責任問題が出る
自治体	1. 経費が少なくて済む	1. 会場の整理等で人手を多く必要とする	1. 健診段階では人手はいらない	1. 経費がかさむ

いとす意見が大勢であった。

## 2) 病診連携について (西村会長提言)

今回は特に私的医療機関と公立病院との地域に於ける望ましい関係について討論された。

以下が今回の要旨であった。公的病院は高度医療を要するケース、救急医療、特殊専門外来診療等を受け持ち我々地域開業医はコモンディーズの診療に当り、必要に応じて患者を公的病院へ紹介依頼する形が望ましい。しかし現行の保健診療制度の下では両者共にその医療経営面からみると止むを得ないことであるが、必ずしも連携協力関係にはなく、むしろ競合関係にある場合もある。両者のメリットが一致する点を探すことが必要である。

## 第二回生涯教育準備委員会報告

昭和61年9月11日(木)講演会終了後午後10時10分より11時まで、西多摩医師会講堂にて開催された。

出席者 大塚、松原、足立、東、石井、塩澤、木村、野本、村山、渡辺(出席率 $\frac{10}{19}$  52.6%) (但、大久保、平山、坂本は除く)

### 主要議題 病診連携について

やさしい出来ることからやって行こう。三病院の院長、副院長との懇談会を持ちたいので、我々の意見を聞いてまとめて置きたい。

- 病院にはCTがあり、Angioが出来る病院。若い人の新しい知識を得る。年輩の先生とは大変であらうから病院の先生と親しくなる。小グループ例えば、消化器を一緒に勉強する。
- 紹介の問題、往復ハガキで要点を簡潔に書いた西多摩方式のものを作ったら、どうか。
- 病院と診療所の先生の都合のよい第5土曜日の午後集って、CPCの病理を主体としたものでなく、臨床的な内容について、よくなった治療例を中心にして貰うと勉強になってよい。

○入院検査をして貰い病院の専門医に教育して貰う。本日の講演のようにキャッチボールシステムを作るとよい。経済問題は?

○病院側の受入れが99%であるから開業医はわからない。

### 登録医問題

◎全国区か地方区か。ネームプレートを作る。

○10月、11月頃までに各ブロックに1~2病院を指定するモデルケースとしてするので各地区の事情に応じて作ってよい。(都医師会の方針) カンファレンス

◎CCかCPCか(紹介患者の検討会)三病院持ち廻り。三病院主催か医師会主催か。医師会講堂か。キャッチボールシステム(あくまでも主導権を持って専門的の知恵を貰う制度)

### ベットサイド ティーチング

◎三病院では無理で杏林大学か。

○杏林大学は積極的に受け入れてくれる意向である。(文責 塩澤永康)

## 各部より

### 公衆衛生部だより

#### 1 献腎のすすめ

現在日本では、腎不全で透析をしている人が、66,000人にも及び、更に毎年6,000人づつ増加しています。

腎移植を希望する人はおよそ7,000人いますが、実際は年間500人しか行なわれていません。日本の腎移植の特徴は身内の腎提供による生体腎移植が75%しめていることです。米国では約70%、ヨーロッパでは90%も死体腎により移植が行なわれています。

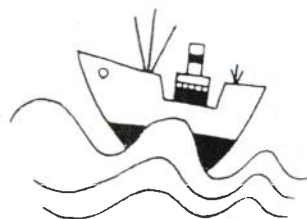
腎移植に関しては、生体腎も死体腎も共に80%以上の生着率がありますので、死後の腎提供が大変役立つのです。一般の人達と共に医師もすすんで献腎に協力することが大切です。

#### 2 感染症サーベイランス事業の拡大について

現在厚生省の行う感染症サーベイランス事業については、各都道府県医師会所属定点の奉仕

的な協力によって成果をあげておりますが、従来の事業に加えて結核、性行為感染症も加えて、『結核・感染症サーベイランス事業』として発足することになりました。これにつれて定点数も増えることとなります。

東京都では、対象疾病を独自に不明発疹症(小児のビールス性発疹で皮膚科の発疹ではない)をサーベイランス事業に加えて事業を続けてゆきます。(記 林 實)



## 第二回学術部委員会報告

日時 昭和61年9月19日(金) P.m. 9:55~10:35

場所 西多摩医師会館講堂

出席者 林、東、松原、木村、野本、平山、村山  
塩澤、( )坂本、( )植田、佐々木  
( $\frac{9}{11}$  81.8%)

### 議題

1. 反省の件：木曜日が多いが第2火曜日、金曜日にもしたらどうか。

◎出席する人は大体決っているが、来ない人をどうしたらよいか。

○40名台になり一応の目標に達したのでこれでよいのではないか、多くなったら会場が狭くなって困るのではないか。

テーマは：今の状況では何をやっても来るのではないか。

評価は：講演内容に関してもおうむねよいのではないか。

2. 講演報告の会報掲載の件

◎7月22日管外理事會にて学術部にて担当するように塩澤に一任され、会報に講演要旨を予告掲載した。出来る限り今後も掲載する予定(講師次第であるが)。

○講演要旨の予告だけでよいのではないか。

○原稿用紙4枚以内で感想記的のもので克明に書く必要ないのではないか。

3. 来年度の方針とテーマー

○各専門分野に於る最近の診断法と治療について、特に会員の中から臨床経験の豊富な方々を選んで、シリーズを組み、会員から提供した2~3の実例を中心に討議しながらする形式の勉強会。青梅総合病院脳外科の宮崎先生、リュマチ膠原病の桜井先生、特殊疾患としてめまいの臨床について耳鼻科村生先生。

○栃木ガンセンター副所長尾形先生、肝癌、膀胱癌の外科について、

○婦人科特に腹痛(子宮内膜症)について

○温熱療法、血漿交換について

○CPCでなくCC。中毒(誤飲)

○臨床検査 腫瘍マーカー、意外性のもの、最近のもの

○救急処置(特に小児、気管内異物)

○コメディカル向、一般向講演会は続けたい。

○高血圧、感染症は毎年行なっているが来年も

○一般教養に関しては今回講演を聞いて、又、会員の反響を見て考える。

4. その他

○12月~1月頃までに予定表(敲き台用)を作り委員会を持つ予定

○本年度の後半の司会等の担当を決めた。

## 昭和61年度全国労働衛生週間における医師会の活動について

産業医部 高木 直

毎年、国の提唱する全国労働衛生週間は準備期間が9月、本期間が10月の各1ヶ月間であり、本年で37回目をむかえる。

今回のスローガンは「みんなで進める環境改善心とからだの健康づくり」となっている。

現在の労働衛生管理の目標は、職場における有害因子を排除して労働者の健康障害を防止するのみならず、快適な職場環境をつくることであり、更にまた、働く者自身、心とからだの健康の確保、増進を図ることを目的として推進すべきであろう。このため、衛生管理者、産業医を中心とした衛生

管理体制の機能を活性化させるとともに、作業環境管理と作業管理を基本として幅広い観点からの健康管理を有機的に結合させる事により、労働衛生対策を総合的に推進する事が重要である。

特に高令化社会へ向って増加しつつある、中高年労働者の健康づくり運動への取り組みを一層進展させる事が望まれる。

この趣旨に沿って、7月に開催された、当管内3者協議会の席上、行政側、及び事業者側より当医師会へ、労働衛生面での労働者に対する積極的啓蒙活動として講話の依頼があった。当会として

高木理事を選出、去る9月10日、及び12日の2回、各々西多摩管内一般企業150名、西多摩建設業組合加盟団体30名を対象に「職場活動と体力づくり」と題して講話を行なった。

内容も、快適な職場づくりのための3本柱である環境管理、作業管理、健康管理は従来より徐々に改善されつつあるが、本格的な高令化社会への移行期にある現在、自分の健康はみずから確保す

るという能動的姿勢が、働く者にとって必要でありこのための方策として運動効果による体力づくりを、運動生理学による理論と、具体的運動内容の分析による実践を中心に進めた。

とにかく、今后、職場における、心身にわたる健康に関する相談及び指導体制の整備に焦点を向ける必要がある。

### 11月12日講演会要旨

## 医療相談室の窓口からみた世相

大学病院開設以来12年間に、医療相談室を訪れる患者や家族が持つ問題や悩みの内容にいろいろな変化が起きてきています。内容だけでなく、考え方や対処法、病院や医師に対する期待にも違いが生じています。

こうした変化の背後には「社会」の変化が考えられますし、これが個人に及ぼす影響の結果、かつては考えられなかったような新しい問題が包まれてもいるようです。

核家族化、過当競争、学歴社会、情報過多その

他「現代社会」を特徴づける現象をふまえて、家族に対する働きかけ、カウンセリングの方法などをお話する予定であります。



日時 昭和61年11月12日(水)午後7時30分

場所 西多摩医師会館 講堂

演題 医療相談室の窓口からみた世相

講師 聖マリアンナ医科大学助教授

”

病院 医療相談室長

深澤 道子先生

### 11月19日研究会要旨

## 乳児健診について

青梅市立総合病院

小児科 林 良 樹

日頃、乳児健診をされている先生方に、改めて今更という感があるのですが、小児科を専門にやっている立場から乳児健診におけるチェック・ポイントを再整理してお示しするとともに、最近の話題に少しふれてみたいと思っています。

乳児健診というのは、roughに考えれば非常に簡単ですが、strictに考えるとこんなに難しいものもありません。しかし、結局、治療や療育をを早く行なえば治る、あるいは、大事に至らないですむような異常を見落さないようにするということに尽きるかと思えます。そうはいつでも、実際その発見が難しい場合も少くないのです。特に、乳児の神経学的発達のチェックに関しては、更に深い専門的知識と熟練が必要となります。

個々の難しい点はともかく、スクリーニングとしての乳児健診において必要なポイントを確認しあっておくことは、地域の乳児健診のレベルを保つ上で大切なことだと思いますし、その一助となれば幸いと思っています。



文 芸

意欲のみの中に雑事にかまけ老いたけて  
 筆執りて又彩色の画など眺めて  
 収集のマスケットなど展示して  
 同好集ひ楽しむよし  
 常日頃多忙極むる我々とて  
 為さんとしても限りあるなれど  
 菊薫る「文化の月」よこの月は  
 医人我等も何をかなさむ  
 国会は医療法改正に突進す  
 統制強化の枠にしほりて  
 且つて先人米と医療の統制を  
 慨嘆なせしも今に統制を  
 収獲に一喜一憂なせしものを  
 円高の餘波に忘れ去られて  
 秋深み紅葉なす山足速し  
 収獲急ぐ忙はしき季節  
 文化月 小泉新策

診療報酬明細書返戻状況

7月分

	返 戻 理 由	医科(乙表)件数			
		青 梅	福 生	秋 川	西多摩
1	保険者番号、記号・番号、公費負担者番号、市町村番号、受給者番号の不備又は保険者番号と記号の不一致	35	8	8	14
2	旧証の記号・番号	0	2	0	0
3	患者名、生年又は生年月のもれ	0	0	0	2
4	傷病名のもれ	0	2	0	0
5	診療月分、診療開始日、診療実日数、転帰のもれ	0	0	0	2
6	診察料(初診、再診、往診又は時間外等の表示)のもれ	0	0	0	0
7	診療月と診療開始日及び初診料の不一致	7	0	1	1
8	診療実日数と診察回数又は処方回数の不一致	4	7	0	8
9	投薬・注射(薬名、規格単位、用量、回数)の不備	1	1	3	0
10	処置・手術・検査・X線(薬名、回数、内訳)の不備	0	1	0	0
11	入院料の不備	0	0	1	1
12	点数欄記入もれ又は点数算出根拠不明	0	0	0	6
13	契約外(国保、国鉄、公費等)	0	2	1	1
14	症状詳記(診療内容及び方針の説明等付せん参照)	1	4	0	6
15	医療機関(薬局)の申し出によるもの	0	0	0	1
16	その他	1	0	0	2
	計	49	27	14	44



## 文 芸



第48回一水会展 1986 すももの花咲く頃 稲垣壮太郎

五月の連休のある日、絵のモチーフ探しに日の出町の玉の内に出掛けました。以前より目星をつけていた農家を訪れてみると、思い掛けずも、すももの花が春の陽ざしに咲き乱れ、古い草葺の屋根と対比的に耀いていました。実に感動的な一コマでした。

何とかこの感動を絵にしたいと努力しました。

稲垣壮太郎

**同好会だより**

**第54回 西医ゴルフ研修会**

昭和61年7月12日(土) 島松コース  
13日(日) 苫小牧G.C.

今年は雨にたゞられ、2日目は1Rプレイされた先生方もいらっしゃいましたが、公式戦はハーフで打ち切りになってしまいました。

それでも、12日の夕食会は当日網元から取り寄せて貰ったカニ、魚、それにおいしい生ビールの味を満喫し、楽しい夜を過ごしました。

優勝は青梅市立総合病院の工藤先生でした。  
(足立)

	島松		苫小牧	G	HD	N
	C	A	I			
工藤	48	48	45	141	24	123
大橋(弘)	55	52	56	163	37.5	125.5
松原	55	51	53	159	31.5	127.5
川崎	60	48	57	165	36	129
足立	50	50	52	152	22.5	129.5
池田(久)	60	64	57	181	51	130
大河原	52	54	60	166	36	130
波田野	60	50	51	161	30	131
杉本	55	54	56	165	27	138
池田(聖)	75	70	59	204	54	150
大橋(敏)	80	79	86	245	54	191

**第55回 西医ゴルフ研修会**

兼第21回西貊対抗戦  
昭和61年9月27日(1泊)～28日  
那須野ヶ原G.C.

速方の為か、参加者が少く一寸残念でしたが、コースの状態もよく、また天気も快晴に恵まれ、その上、前夜祭では支配人の御厚意で大田原市第一のカラオケスナックでカラオケ大会も開催され、大いに盛り上りました。親睦という意味では最高であったと思います。

個人戦は大嶽先生がバスコグロ優勝、団体戦も西多摩医師会が接戦をものにし優勝しました。  
(足立)

	那須川	那須	G	HD	N
大嶽(栄)	41	42	83	7	76
山口	42	48	90	12	78
川島	55	54	109	30	79
大嶽(繁)	48	51	99	20	79
近藤(高)	44	46	90	9	81
足立	47	45	92	11	81
岩瀬	42	47	89	7	82
近藤(正)	53	53	106	23	83
青井	54	54	108	24	84
近藤(玲)	54	49	103	17	86
川崎	54	56	110	22	88
藤川	50	55	105	13	92

お し ら せ

会員のご協力により会報の定期刊行が軌道に乗っております。ひとつ発行日が月遅れとなっている不手際があり、この問題を年末・年始にクリアし、明けて2月8日には2月号をお届けするよう計画しております。

○12月10日までに、従来通り原稿をお寄せ下さい。

1月9日には12月号を発行します。

○62年新年号について、執行部4役の先生には、1月9日のレセプト提出日までに年頭所感をお願い致します。新春にふさわしい特集号を1月末日までにと考えております。

長年ご迷惑をおかけしましたが、特異な22×22会報原稿用紙をお別れし、来春から普通の20×20原稿用紙を使用できるよう準備中です。  
編集委員会



## あ と が き

秋晴れの空にドーン、ドーンと花火が鳴り“天国と地獄”の軽快な曲が流れてくる。毎日曜、近くの小中学校や高校の運動会、今がたけなわである。

10月10日、「体育の日」には福生市民総合体育大会の開会式があり、早朝野球クラブの一員として参加した。会場の市民体育館は、ソフトボールの小学生の女の子から70才を過ぎたと思われる柔剣道やゲートボールのお年寄、やたらにタクマシク、ニギヤカなママさんバレークラブなど、まさに老若男女の熱気に溢れていた。

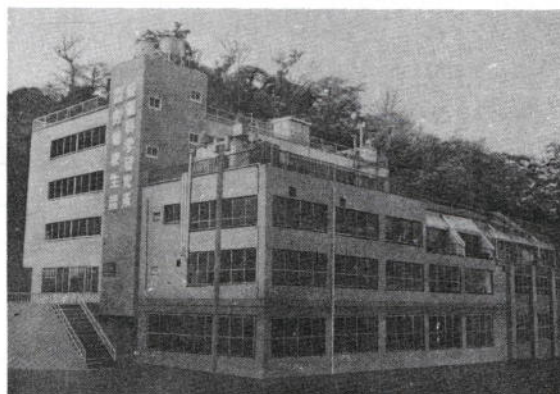
9月ソウルで開かれたアジア五輪大会で日本は当初もくろんでいたメダル数にも終わってみると遠

く及ばず韓国にも追い抜かれてしまった。中国や韓国は国威発揚の手段として五輪大会をとらえ国を挙げて勝利第一主義で臨んでいる。最近の日本選手には「日の丸」を背負いヒソウカンに充ちた者は少ない。個人の楽しみとしてのスポーツの延長線の上に五輪大会もあるようだ。国威発揚の手段としてスポーツを利用する段階は日本は卒業したのであろうか。あるいは多様な価値観の存在を認める我が国では最早“国を挙げる”ことはなくなったのであろうか。いずれにしても成熟しつつある社会現象であろうと考える。ますます個人としての能力が評価される時代である。

担当 栗原 琢磨

## 臨床検査センターの雄 保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町106  
電話 045 (333) 1661 (大代表)  
八王子市子安町3-17  
電話 0426 (26) 2203・2204



- 総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。
- 完全オンラインシステム化を実現致しました。(データ通信システム)
- 関係医療機関 約 3,500ヶ所
- 広範囲な検査内容
  - 内分科学研究検査●免疫学検査●ウイルス検査●生化学検査●血清学検査●血液学検査
  - 病理組織検査●細胞診検査●重金属検査●水質検査

！都川県の御得意先を毎日定期的に集配致します。御一報を御待ち致しています。